

## はじめに

本誌2018年2月号のテクニカルフォーカス (P15~18) で、グレゴリオ・パルトリエリ (イタリア) の泳ぎの解説記事を掲載していますが、誤って手前のコースを泳いでいたガブリエレ・デッティ (イタリア) の泳ぎの連続写真を掲載してしまいました。読者の皆様、そして著者である野口智博先生に多大なるご迷惑をおかけしたことを心よりお詫び申し上げます。また、ご指摘くださいました読者の方に感謝申し上げます。

スイミング・マガジン編集部

\*\*\*\*\*

## 誤りから生まれた泳法比較による発見

まず、今回の件に関しまして、読者の皆様に深くお詫び申し上げます。また、ご指摘くださいました読

者の方に感謝申し上げます。今後このようなことがないように十分注意いたします。

\*

何十年の間、何万例もの泳ぎを観察している私が、本誌の中で泳ぎの違いに気づけなかったのは過去に2回しかなく、そのうち1回は編集部チェックの際に指摘され修正して事なきを得ました。しかし今回に限っては、私はもちろん、編集部さえも違いに気づきませんでした。

もちろん、デッティも400、1500m自由形のリオ五輪銅メダリストです。ブダペスト世界選手権では800m自由形で欧州新をマークし金メダルを獲得した、パルトリエリに負けず劣らずの名選手です。本誌2月号については、前段はパルトリエリの動画を確認した印象を書いております。また、別だしの水中写真 (2月号P18) はパルトリエリですので、それらはそのまま、パルト

リエリの泳ぎの特徴と解釈していただけたら幸いです。

それらを鑑み、連続写真の解説での「パルトリエリ」を、「デッティ」に差し替えて、「デッティの泳ぎの特徴」と原稿内容を認識していただけたら、幸いに存じます。

そこで、リベンジマッチというわけではありませんが、WEB上で改めてパルトリエリの泳ぎを解説させていただくチャンスを得ましたので、ここでは始めに、「なぜ野口がデッティとパルトリエリの違いに気づけなかったのか？」という視点から、彼らの泳ぎの共通点や相違点を解説してみたいと思います。その後、改めて、彼らの泳ぎの特徴を探り出してみたいと思います。

## 泳法比較からわかる両選手の泳ぎの特徴

写真①からの写真ですが、下を泳いでいるのがデッティ、上がパルト

リエリです。今度こそ間違えないようにしましょう! (笑)

ちょうど両者の右腕がエントリー動作に入ったところです。②ではパルトリエリの方が少し早めにキャッチ動作を開始しています。③では、パルトリエリの方がプル動作中盤にさしかかっているのに対し、デッティはまだキャッチ動作の終盤ですね。⑤ではすでにパルトリエリは右腕がフィニッシュ動作を終えてリカバリーに入るところで、顔を横に向けて、息継ぎの動作が始まります。一方のデッティは顔をやや前に向けてヘッドアップ動作を始めながらフィニッシュに入ります。

写真⑥では、パルトリエリは高く上げた頭を水面より倒しながら、呼吸動作が入り、かなり早めに顔を戻します。一方デッティは、ここでいったん頭を高く持ち上げ、⑦で息継ぎが入り、頭を水面へと寝かせていきます。⑨では、パルトリエ

リはすでに左腕のキャッチからプル動作に入るところですが、デッティはここまで顔を横に向けて息継ぎをしています。

ここまでの動作で若干の差異はありますが、写真⑪では、両者とも右腕が入水され⑫まで上半身は沈み気味の姿勢がとられていることが確認できます。

さあ、ここまで見てこの2人の泳ぎの明確な違いが、読者の皆様にわかりますでしょうか? そうなので、私が違いに気づけなかった最大の理由は、ワンストロークサイクル (片腕の入水から、次の入水まで) のリズムが、2人とも同じであるということと、タイミングの違いこそあれ、ヘッドアップ動作から息継ぎで顔を横に倒す感じがよく似ていたためです。

こうやって2人を並べてみると、息継ぎのタイミングの違い、右腕のストロークの速さの違いは見てとれ

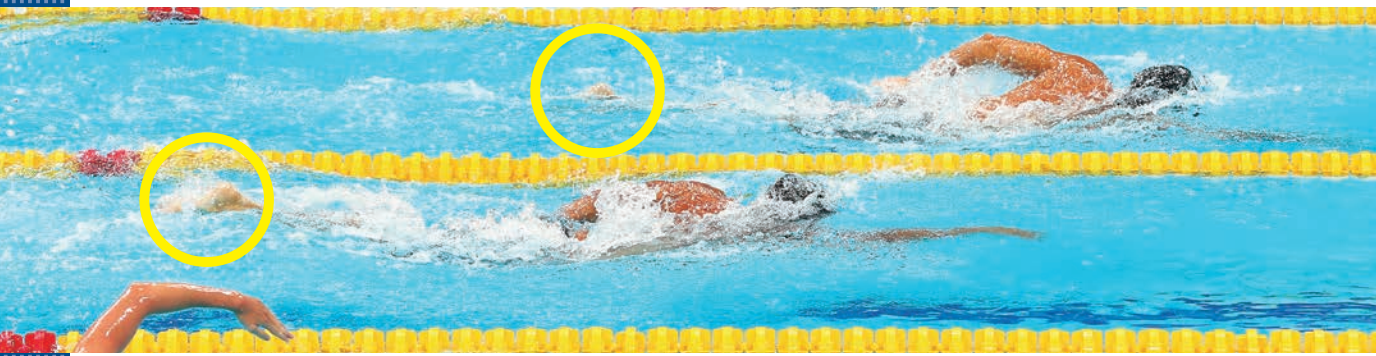
ますが、右腕が入水するタイミングや、その際に生じるピッチング (上下動) の特徴 (本誌2月号で述べています) は、2人ともあまり変わらないですね。

実際の泳ぎでは、写真⑫に見られるように、右腕入水後の身体の沈み込み加減は2人とも変わりません。パルトリエリの方が、若干頭が高めに残っている感じがするくらいです。その後の動きでは、パルトリエリの方が上体の浮き上がり具合が大きいかも見えます。これは動画でも確認できます。

## 両選手の違いはキックそこに得意とする距離が関連

このように、微細な相違点こそあれ、かなり似た特徴を持つ2人の泳ぎではありますが、大きな違いが一点だけ見られます。

次ページの写真、2人の足を見てもらいたいのですが、デッティは、



カカトの見え方からわかる両者の『キックの貢献度』の違い

上がパルトリニエリで下がデッティ。デッティは必ずこの右足が入水するとき水面をトーンと叩くような感じで、1ストロークに1回だけ強いキックを打って、ストロークのリズムを取っている。6キックの

泳者でも時折見られるが、スイマーの感覚では、ここで足が水を叩く感触を常につつことで、ボディポジションを高く安定させることができる。2月号の解説時には、気づかなかった部分でもある。

右腕の入水後に必ず右足のカカトが水面上に出て、意図的にキックでリズムを取っているのがわかりますが、パルトリニエリは、わずかにカカトが水面上に見えるか見えないかの位置までしか上がらず、800mのレースではキックを使うシーンが見られるものの、1500mのレースではほとんど足を振っているだけのように見てとれます。

一方、デッティのキックは2キッ

クではあるものの、パルトリニエリのようなただストロークのタイミングに合わせて動かすのではなく、片足ずつではあるものの、意図的にキックによる加速を入れ、それをリズムにしてピッチを安定させています。パルトリニエリに比べ、デッティの方が400mで良績が多いのは、おそらくこの「キックの貢献度」に違いがあるからだと思われます。

一方で、キックをあまり打たないパルトリニエリは、浮力の維持がデッティよりも難しいはずですが、しかし、パルトリニエリの身体の浮きを支えているのは、何なのでしょう？

実は彼のエントリーからキャッチにその秘密があると、私はみました。2月号の連続写真解説で述べた通り、デッティは、キャッチから手を後ろに向けた「抗力泳法」で、直線的に水をかいていました。しかし、パルトリニエリは写真①の時点で、すでに手を下方方向に動かしながら水を押さえているように見えます。この入水後の水の押さえにより、上体を浮上させながら、ピッチングしていると言えます。ただ、手で水を下に押さえる動きはほんの一瞬で、その後すぐにキャッチからブル動作に入るため、デッティより右腕のストロークが速くなるのでしょうか。

\*

まあそれにしても、同時期に同じ国で出てきた本格派の長距離スイマー。しかも2人ともなかなかのイケメン(笑)。2020年の東京五輪に出場したらファンが増えそうですね。そんな騒ぎになったときに、今回の写真の取り違いについても併せて思い出していただけたら、大変ありがたいと思います。

P R O F I L E



Gregorio Paltrinieri

Gabriele Detti

[グレゴリオ・パルトリニエリ] 1994年9月5日生まれ、イタリア・カルピ出身。身長191cm、体重72kg。  
●自己ベスト(すべて自由形)：400m3分48秒41、800m7分40秒81、1500m14分34秒04

[ガブリエレ・デッティ] 1994年8月29日生まれ、イタリア・リボルノ出身。身長184cm、体重79kg。  
●自己ベスト(すべて自由形)：400m3分43秒36、800m7分40秒77、1500m14分40秒86

[ふたりの歩み] パルトリニエリとデッティは同年で、ジュニア時代から同じクラブとともにステファノ・モリーニ氏に師事してきた練習仲間でもある。世界デビューも同じ2011年だが、パルトリニエリは上海世界選手権に出場。その後に行なわれた世界ジュニア選手権(ペルー)にはそろって出場し、800mはデッティが2位でパルトリニエリが3位、1500mはその逆の順位と、切磋琢磨して現在の地位に上り詰めた良きライバル。ともに二度目のオリンピックとして出場した2016年リオ五輪は、400mではデッティが銅メダル、1500mではパルトリニエリが金、デッティが銅メダルを獲得した。